

問題 9

文法 文章の文法

- 問題 9 は新しい問題です。600 字程度の文章の中に質問が五つあります。内容を考えて後に続く文や言葉を答えたり、助詞や接続詞を答える問題です。
- では、短い例題から練習してみましょう。

問題 9 は新的題目。600 字左右的的文章中設有五個問題，考生要在思考內容之後回答後面接續何種句子或詞語，或回答助詞、接續詞為何。

那麼，讓我們試著從短篇例題開始練習吧。

次の文章を読んで、[] の中に入る最もよいものを、1・2・3・4 から一つ選びなさい。

例

先日の電車の中でのことです。立っていた若い男の人 [1] 咳をしたら、その人の前に座っていた中年の男の人がすごく怒ったのです。その若い男の人が口を手で押さえずに咳をしたからです。確かにそれはマナー違反ですし、今、風邪もはやっていますから、中年の男の人の怒る気持ちもわかります。[2]、その怒り方は普通ではありませんでした。若い男の人がいくらあやまっても、ずっと怒り続けていました。そして、その人は怒りながら電車を降りていきました。私はその様子を見ていて、なんだかちょっと気分が悪くなりました。その中年の男の人だって同じようなことを [3]。

- [1] 1 は 2 が 3 に 4 で
- [2] 1 それに 2 しかし 3 ところで 4 それどころか
- [3] 1 するのに 2 しないとは限らないのに
3 しないわけにはいかないのに 4 するはずなのに

- [1] はどれを選びましたか。これは咳をしたのが若い人で、次の文章の主語（中年の男の人）とは違いますから、2 の「が」が入ります。[2] は前の意味と反対の意味の文章が続くので、2 の「しかし」が正しいです。[3] は前の文章から考えて、「そういうこともあるのではないかと思う」という意味の言葉が入ると考えられるので、2 の「しないとは限らないのに」が正しい答えになります。
- では、続けて練習問題をやってみてください。

[1] 要選哪一個呢？咳嗽的是位年輕人，和接下來的句子主語（中年男子）不同，因此應填入選項 2 的「が」。

[2] 後面接續與前一段意思相反的文章，所以正確答案是選項 2 的「しかし」。

[3] 從前面的文章判斷，可以知道要填入意思為「そういうこともあるのではないかと思う」的詞語，因此正確答案應為選項 2 的「しないとは限らないのに」。

接著，請試著做練習題。

問 1

相手の話を聴くことは、相手に注目し、敬意を払ったり同情したり理解を示すことに [1]。それは、「私はあなたを認めます。そしてあなたの話に集中していますよ」と肯定的に受け入れる [2] を意味しています。

聞き手が相手に集中してじっくりと話を聴く姿勢を示すと、相手は安心し、自尊心^(注)を維持することができます。[3]、話を聴いてくれない態度が相手に伝わると、自分の存在を否定されたかのように感じ、傷ついたり、不安になります。

(『コミュニケーション技法』ウイネット)

(注) 自尊心：自分自身を大切に思う気持ち

- [1] 1 なりかねません 2 他なりません
3 すぎません 4 しかたがありません
- [2] 1 もの 2 わけ 3 つもり 4 こと
- [3] 1 それどころか 2 すなわち 3 逆に 4 ついに

問 2

君にもところがある。ぼくにもところがある。そのことを、君は一度だって[1]。ぼくたちは、自分のところの動きを感じながら生きている。喜んだり、悲しんだり、怒ったり、愛したり、憎んだりする自分のところの[2]、君は生きることができるだろう。君が、自分のところの動きを感じられないのは、眠っているときぐらいの[3]だろう。

ところは、それくらい、ぼくたちに身近な^{みぢか}(注)ものだ。いや、身近なもの[4]、ぼくたち自身そのものである。ところで、ぼくたちは、そのところについて、どれだけ知っているだろうか。知っているように思っていて、ほとんど知っていないもの、それが自分自身であるところだ。

(なだいなだ『心の底をのぞいたら』筑摩書房)

(注) 身近な^{みぢか}：とても自分に近い

- [1] 1 疑っているだろう 2 疑ったことはあるまい
3 疑ってみたかもしれない 4 疑ってもいい
- [2] 1 動きといっしょに 2 動きなしに
3 動きで 4 動きがあって
- [3] 1 こと 2 もの 3 はず 4 わけ
- [4] 1 ところで 2 といえば 3 どころか 4 だけでなく

問 3

みんなが欲しいがる物を作ると交換できる、つまり売れることになりますね。では、いくらで売れるのでしょうか。こういうときに[1]言葉があります。それは「需要と供給」です。

「商品の値段は、需要^{じゅよう}と供給の関係で決まる」

こんな言い方をすると、なんだか経済学者みたいでしょ。「需要^{じゅよう}」とは、みんなが買いたがっている量です。「供給」は、実際に[2]量です。

どうしても買いたい人が多くいると、少しぐらい高くても買いますよね。だから、商品の値段は上がります。

[3]、買いたい人が少なく、どうしても売りたい人が多ければ、少しぐらい安くても売りますよね。そこで、商品の値段は下がります。

もし商品の供給が少なくて値段が高くなると、商品を作っている人(会社)は、「もっと作っても高く売れてもうかるぞ」と考え、たくさん商品を作ります。[4]、商品が増えると、今度は値段が下がります。この逆も起きますから、長い目[5]見ると、商品は、ふさわしい^(注)値段に落ち着くことになるのです。

(池上彰『14歳からのお金の話』マガジンハウス)

(注) ふさわしい：適切な

- [1] 1 知っている 2 知らない 3 知っておきたい 4 知ってみる
- [2] 1 売ることができる 2 売れるはずがない
3 売れるわけにはいかない 4 売れたかもしれない
- [3] 1 つまり 2 一方 3 だから 4 ただし
- [4] 1 ちなみに 2 それはそうと 3 その結果 4 しかも
- [5] 1 で 2 が 3 を 4 に

問4

一時は観光と買い物と[1]集中していた外国旅行ツアーも近頃はもっと細かくなって、音楽を聴く旅、城をまわる旅というようにある趣味の目的を持つ旅行計画もできてきた。これまた結構なことだと思う。しかし、貴重な金を使って折角の外国に行くなら、もっと勉強のできる旅行が[2]。

私は外国旅行をするたび、[3]専門の勉強をしている日本人の若い学者に会うと、思いがけない収穫をえる。その国の美術なら美術、歴史なら歴史を研究している留学生に話を聞き、実際に彼の指示に従って現地を歩くと、その旅行は大学に一年以上、通ったような利益がある。そこで私はいつも考えるのだが、各国にある日本大使館は日本人旅行者のため、こういう留学生、研究家を講師にした講座を現地で[4]。日本人旅行者なら誰でも聴講できる講座(注1)がその国にあれば我々はそれによって、どんなにその国をよく知ることができるかわからない。[5]、それはかの地(注2)で勉強している研究家や留学生のアルバイトにもなるのである。(遠藤周作『ほんとうの私を求めて』集英社)

(注1) 聴講できる講座：参加できる勉強会

(注2) かの地：その場所

- [1] 1 は 2 を 3 に 4 で
- [2] 1 あってはいけない 2 あっていいと思う
3 あるにちがいない 4 あるわけがない
- [3] 1 あそこで 2 そこで 3 ここで 4 どこかで
- [4] 1 開いてくれないだろうか
2 開いているかもしれない
3 開いているみたいである
4 開いているしだいだ
- [5] 1 ところが 2 それゆえ 3 しかも 4 だから

問5

外国の町についても同様である。ぼくはいろいろな町へ行ったが、滞在がいちばん長かったのは一といってもせいぜい一年足らずであるが一パリである。[1]、短期間滞在したほかの町よりも、パリについては知らないのだ。何もあわてること[2]ない、そのうちに行けるだろう、などと思ってるうちに、ついに行かずじまいになってしまった場所がたくさんあるのだ。

これはおそらく、[3]。新聞の常駐特派員(注1)として長くその町に住んでいる支局長などと話をしてみると、たいていそうである。パリに五年も住んでいて、エッフェル塔(注2)に一度ものぼったことがない、という友人もいた。東京に五十年も[4]、泉岳寺(注3)にも行ったことがないのと同列である。まあ、そんなものではなかろうか。つまり、つい安心してしまふわけである。だから、[5]、ということは、けっして行けない、ということなのだ。

(森本哲郎『「私」のいる文章』新潮社)

(注1) 常駐特派員：いつも外国にいてニュースなどを取材する人

(注2) エッフェル塔：パリの有名な建築物

(注3) 泉岳寺：東京にある寺

- [1] 1 ところが 2 したがって 3 それゆえ 4 すなわち
- [2] 1 と 2 に 3 は 4 を
- [3] 1 ぼくだけの体験ではあるまい 2 ぼくだけの体験だろう
3 ぼくにしかできない体験だ 4 ぼくの望む体験だ
- [4] 1 住んでいることで 2 住んでいるから
3 住んでいるうちに 4 住んでいるながら
- [5] 1 すぐ行ける 2 いつでも行ける
3 なんとか行ける 4 いつも行きたい

問6

これまで、私は動物の親と人間の親について書いて来た。動物的には、親は役割だが、人間社会では関係でもあるといった。

だが、この役割と関係のちがいを、ほとんどの人たちは、はっきりと区別することなしに生活している。[1]、それは重なりあっているところもある。親の役割も、社会のなかで行なわれているのだから、そうならざるをえない。

だが親子を考える [2]、この二つのそれぞれを切り離して、とりだしてみる必要がある。

動物でも、社会を作っているものがあるから、社会のなかで、固体と固体のあいだの関係はある。だが関係は、役割 [3]、はっきり区別されている。たとえば、動物のなかでも一夫一婦制をまもるものもある。この関係は一生続くことも、稀^{まれ}ではない。しかし、そうした動物でも、親子の関係は、子が育ち一人前になり、親の役割が終わると同時に [4]。親子のつながりは、一つの季節以上に続かないものが大部分だ。同じ群^{むれ} (注1) のなかで生活していても、子供がすっかり一人前になってしまったあとは、もう親子のつながりはひとかけらも (注2) 意識されていない。人間は、自分たちの親子関係意識 [5] 動物の親子を見るから、役割を見おとししてしまう。(なだいなど『親子って何だろう』筑摩書房)

(注1) 群^{むれ}：動物の集団

(注2) ひとかけらも：少しも

[1] 1 すなわち 2 したがって 3 たしかに 4 いわゆる

[2] 1 ためには 2 ように 3 から 4 わけで

[3] 1 が 2 へ 3 と 4 を

[4] 1 切れてしまう 2 切れないでほしい
3 切れるべきだ 4 切れそうだ

[5] 1 の 2 で 3 が 4 に

読 解